

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第3区分

【発行日】平成22年8月12日(2010.8.12)

【公開番号】特開2009-121731(P2009-121731A)

【公開日】平成21年6月4日(2009.6.4)

【年通号数】公開・登録公報2009-022

【出願番号】特願2007-295047(P2007-295047)

【国際特許分類】

F 24 F 1/00 (2006.01)

F 24 F 13/20 (2006.01)

【F I】

F 24 F 1/00 3 1 1

F 24 F 1/00 4 0 1 C

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月24日(2010.6.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

回転方向前方が凹面に湾曲した複数の翼を放射状に有して筐体内に横設されるクロスフローファンと、

前記クロスフローファンを囲んで配置されるとともに少なくとも一部に冷媒管が3列以上並設される熱交換器と、

前記クロスフローファンの前方に配されて前後に延びる上部案内面と、前記クロスフローファンの後方から下方に延びて前記上部案内面に対向する下部案内面とに上下を囲まれて前記クロスフローファンから送出される空気を室内に吹き出す吹出し通風路と、

を備え、前記翼は翼弦長に対する最大キャンバーの比が0.155～0.22であり、

前記上部案内面の後端から前端までの沿面距離と、前記上部案内面の後端に接した鉛直線と前記下部案内面との交点から前記下部案内面の前端までの沿面距離と、の平均値から成る風路長が前記クロスフローファンの直径の1.6倍以上であることを特徴とする空気調和機。

【請求項2】

前記クロスフローファンから送出される空気が流通して前記筐体内部と一体の送出ダクトと、前記送出ダクトの下壁の前端に配された向きを可変の風路延長板とを設け、前記下部案内面の後部が前記下壁から成るとともに、前記下部案内面の前部が前記風路延長板から成ることを特徴とする請求項1に記載の空気調和機。

【請求項3】

前記送出ダクトの前方上部に向きを可変の風向板を設け、前記風路延長板及び前記風向板を略鉛直下方に向けて配置するとともに前記風向板の一端を前記送出ダクトの上壁に近接し、前記上部案内面の後部が前記上壁から成るとともに、前記上部案内面の前部が前記風向板から成ることを特徴とする請求項2に記載の空気調和機。

【請求項4】

前記クロスフローファンから送出される空気が流通して前記筐体内部と一体の送出ダクトと、前記送出ダクトの前方上部に配されて向きを可変の風路延長板を設け、前記上部案内面の後部が前記送出ダクトの上壁から成るとともに、前記上部案内面の前部は前記上壁

に連続して配置される前記風路延長板から成ることを特徴とする請求項1に記載の空気調和機。